

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷惠策 SJ

35

第十幕 第三場

ローマにて

1523 年聖週間と復活祭の週

| | | |
|-------|-----------|---------------|
| 登場人物: | イニゴ・デ・ロヨラ | 巡礼者 |
| | ハイメ+イサベル | イニゴの騎士時代の友人夫妻 |
| | ルイス+マリア | 同 |
| | ホセ+フランシスカ | 同 |

【語り】 神はイニゴの絶対的な信頼に応え、疲労困憊したイニゴのもとにその町 (Fondi) の女領主(たぶんベアトリス・アピアーニ伯爵夫人)を送られ、その親切な取り計らいのおかげでやっと町の中に入ることが出来ました。フォンディの町で2日間休み、元気をとりもどしたイニゴはローマに向けて出発し、枝の主日(1523年3月29日)にローマに着きました。

イニゴ: ああ、ここが永遠の都ローマか!ローマをあまり良く言わない人もいるけれど流石に立派な教会が沢山あるなあ。今日は枝の主日だ。どの教会で枝の行列とミサに参加しようか? 教皇様はどこに住んでおられるのかな?

【語り】 道の左右を見回しながらゆっくり歩いていくイニゴを、先ほどからその様子をうかがいながら後をつけてきた一人の男が、意を決したようにイニゴに近づき話しかけました。

。

ハイメ: (はじめイタリア語で)もしもしチョット失礼します。

イニゴ: ……………(気づかずに歩き続ける)

ハイメ: (今度はスペイン語で)チョット失礼します。もしかして、ドン・イニゴ・デ・ロヨラ

ではありませんか？

イニゴ： えっ、なぜ私をご存知なのですか？ 昔はそう名乗っていましたが……、あっ、ハイメ！ハイメじゃないか、君は？ まさかローマで君に会おうとは！なんでローマにいるんだ？

ハイメ： それはこっちが聞きたいよ。やっぱりイニゴか！！ よく似ていると思ってさっきからついてきたんだが、あまりにも様子が前と違うんで、やはり人違いかと思ったりして、なかなか声をかけられなかったんだ。なんて格好してるんだ？騎士の姿を誇りにし、あんなに身だしなみに気を使っていたのに。

イニゴ： 話せば長いことになるが、一言でいえば、この世の騎士の生活をやめて、神の巡礼者として旅に出たんだ。

ハイメ： よほどのことがあったんだろうね？そのことはゆっくり聞くことにして、ともかく家に来ないか？一緒に食事をしようよ。そうだ、あの頃の仲間のルイスとホセもローマにいるんだ。夕食に呼ぼう。聖週間に入ったところだからご馳走はしないからね。スマホがないので、馬で使いをやろう。

イニゴ： ルイスとホセもここにいるのか？久しぶりに会うのが楽しみだね。実を言うと、ロヨラを出てからあまり貴族の知り合いに会わないようにしていたんだ。今日は例外だ。

【語り】 という訳でイニゴは昔の仲間とその夫人たちとともに夕餉の食卓を囲んだのです。

ハイメ： ホセ、君は玄関で会った時直ぐイニゴだと分かったか？

ホセ： いや、直ぐには分からなかったよ、君に言われるまで。

ルイス： 僕なんかそう言われてもまだ信じられないくらいだ。僕の知ってるイニゴは、ふっくらして顔色も良かったが、今はずいぶん痩せたねー！

マリア： 私はすぐわかりましたわ。皆さん服装や体形などを気になさいますが、中身は昔のイニゴ様ですよ。

ルイス： マリアはねー、あのころ宮中でひそかにイニゴに惚れてたんだよ。イニゴがパンプローナで負傷し、ロヨラから姿を消さなかったら、僕なんかと結婚してくれなかったらうね。

マリア： そんなことはありませんわ。騎士イニゴ様はもともと身分の高いお姫様にしか関心がなく、私共は眼中になかったのですから。イニゴ様は高嶺の花でした。

イサベル： 本当にそうでしたね。そのイニゴ様がすっかり御変わりになって、こんなにみすばらしいものをお召しになるなんて、あの頃夢にも思いませんでしたわ。

ホセ： パンプローナの勇士が世捨て人になるまでには、よほどの内心の葛藤があっ

たのだろうね？その過程はそう軽々しく語れまいが、僕らも分からないなりに尊重しなければね。

ハイメ: ローマに来たのも巡礼の一環だろうが、これから何をするつもりなんだ？僕たちにもできることがあれば応援させてもらいたいんだ。

ルイス: みんなで君のことを話しているけど、君はさっきからなにも言わないね。

イニゴ: すまん。食事中は食べることに専念し、食後に話すのが僕の習慣になってしまったんだ。ほとんど、人には言わないことなんだが、今からしよとしていることを少し話そう。……(つづく)